

知っておきたい「胆石症」

1. 胆石症とは

肝臓の中で作られた胆汁は、肝内胆管を通して胆のうに貯えられ、必要ときに胆のうがしぼむことで胆汁が総胆管を通過して十二指腸内に分泌され、油物の消化吸収に使われます。

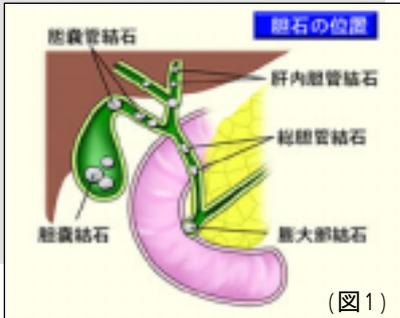
胆汁の通り道(胆道)にできる結石をすべて胆石症といいますが、できる部位により、肝内胆管結石・胆のう結石・総胆管結石に分かれます。このうち胆のう結石が一番多く、一般に胆石症と言えば胆のう結石のことをさします。(図1)

2. 胆石症の症状

腹部の上の方や背中が痛くなったり重い感じがしたりします。油物の食事をした後に痛み発作が起きることが多いようです。

そのほかに発熱や黄疸・

肝機能障害がみられることもあります。



(図1)

3. 胆石症の検査

検診でもよくやると思いますが、まずは人体に害がなく簡単にできる腹部超音波検査を行います(食事をしていると胆のうが小さくなっているのだからわかりにくくなります)。他に腹部CT検査や胆道造影検査などあわせて総合的にみていきます。

4. 胆石症の治療(手術しない場合)

胆石を持っていても症状が無い人はなかなか手術の決心がつかないのが普通です。症状がない人には手術はいたしません。その場合には胆石溶解剤(ウルソ)を飲むことをおすすめしますが、大きな胆石は溶けません。しかし胆石溶解剤には胆汁の流れを良くする作用もあり痛み発作の予防にもなります。

5. 胆石症の治療(手術する場合)

総胆管結石がある場合や痛みをくり返す場合には手術(胆のう摘出術)をすることが必要です。少しでも症状がある人には手術をおすすめしています。往々にして症状がひどくなってから来院される方が多く、その時には傷が小さくてすむ腹腔鏡手術が困難になる事が多いからです。また無症状でも総胆管結石を作っている人には手術をすることもあります。

昔の大きな傷の開腹手術に代わり、最近小さな傷ですむ腹腔鏡手術が胆石症に対する標準術式となっています。手術する患者さんの体への負担が以前と比べ物にならないくらい軽くなりました。術後経過良好な人は術後3日目で退院されています。早期の社会復帰が可能です。

胆石と言われた方はぜひ当院にご相談に来て下さい。

新河端病院 外科一同

ふれあい健康教室行います

今回のふれあい健康教室は、今月号でも取り上げた「胆石症」について、さらにもう一步踏み込んだ内容で解りやすくお伝えします。

なかなか気づきにくいだけでなく、かつ発症すれば大きな痛みを伴う「胆石症」この機会に勉強されてはいかがでしょうか？

第6回ふれあい健康教室

テーマ: 「胆石症の診断と最新治療の最前線」

日時: 平成17年3月12日(土) 14:00 ~

場所: 外来待合ロビー

講師: 新河端病院 外科医長 平川一秀 医師

参加費: 無料(参加は予約制となっております。)

事前に医事課受付にてお申し込み下さい)

新河端病院 理念

信頼と安心の医療

1. 患者様に感動をしていただける医療を実践します。

1. 患者様に選んでいただける病院づくりを実践します。

「患者さまの権利」

患者さまには次のような権利があります。

私たちはその権利を尊重するような医療を行います。

- ・医療を受ける権利
- ・知る権利
- ・自分で決定する権利
- ・プライバシーを守られる権利



医療法人 医修会 新河端病院

病院に対するご意見ご希望、また「ふれあい」へのご意見をお聞かせ下さい。(備え付けの意見箱をご利用下さい。)